国指定史跡

高麗村石器時代住居跡

高麗石器時代住居跡遺跡周辺航空写真（埼玉県教育委員会提供）

高麗石器時代住居跡遺跡

高麗石器時代住居跡遺跡は市の北西部を東流する高麗川の右岸、外秩父山地外縁から東へ伸びる高麗丘陵から流れる沢に挟まれた、標高110mの狭い台地上に広がる縄文時代中期の集落遺跡です。

本遺跡の中に、昭和26年に国史跡に指定された「高麗村石器時代住居跡」があります。この住居跡は昭和４年２月に埼玉県で初めて発掘された竪穴住居跡で、全国でも７例目の調査でした。数少ない縄文時代の竪穴住居跡として、調査以来多くの研究者が訪れる注目の遺跡でした。

高麗村石器時代住居跡近景（後方の山は日和田山）

埼玉県埋蔵文化財調査事業団の調査で出土した縄文中期の土器
（埼玉県教育委員会提供）

－県内初、竪穴住居跡発見－

高麗村石器時代住居跡の発見

昭和３年に埼玉県史の史料調査に訪れた稲村坦元氏は、高麗小学校長後藤重吉氏から土器や石器が数多く散布している場所があることを聞き、その場所には必ず住居跡が存在するとの確信を持ちました。地主であり郷土の歴史を研究していた加藤喜代次郎氏の協力のもと、翌昭和４年２月７日から調査を行い、竪穴住居跡を発見しました。

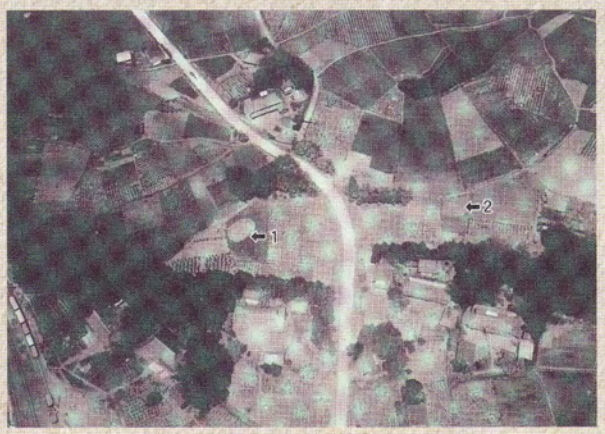
当時の所見ではヒョウタン形をした住居跡で、１号炉のある北側を作業場、２号炉のある南側を生活の場とし、さらに2号炉の周辺には2個の廃炉があり、３回ほど家の建て直しがあったと記述されています。現在では、建てられた時期が異なる径６ｍの円形の住居跡２軒が重複していると考えられています。

この調査を契機に加藤喜代次郎氏は周辺の調査も実施しました。昭和５年から６年にかけて、高麗村石器時代住居跡周辺で９軒の住居跡を発見し、調査を実施しました。

高麗村石器時代住居跡

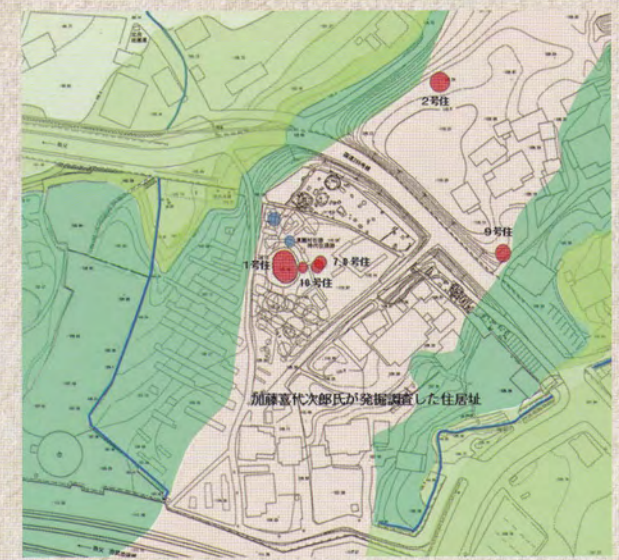
高麗村石器時代住居跡２号炉
（中央に土器が埋設されている）

当時作図された高麗村石器時代住居跡平面図
（時期の異なる２軒の住居跡が重複している。）



昭和５年に陸軍の軍用機により撮影された
高麗村石器時代住居跡周辺の航空写真（1 高麗村石器時代住居跡）

高麗村石器時代住居跡調査参加者



加藤喜代次郎氏が調査した住居跡の分布

加藤喜代次郎（かとうきよじろう）

畑で土器などが多く出土したり、麦畑で生育が良い場所では古代の人々が生活した跡が発見できるのではと予想するなど探究心に満ち溢れた人物でした。昭和４年に発見した高麗村石器時代住居跡は埋め戻さず、見学に訪れる研究者や学生のために便宜をはかりました。

高麗村石器時代住居跡の調査以降も高麗地区で精力的に調査を行いました。航空写真による住居跡の発見、陸地測量部に依頼した住居跡の標高計測や高麗小学校庭の住居跡復元など、当時としては先進的なものでした。

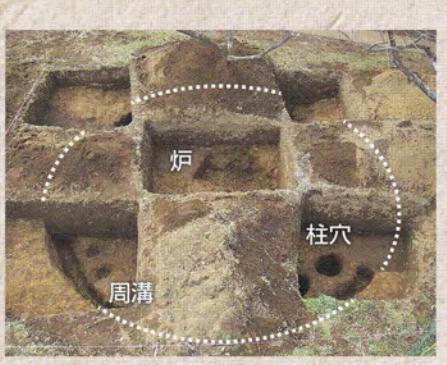
―80年ぶりの調査へ―

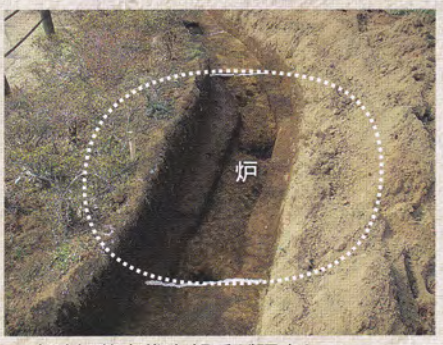
日高市教育委員会による確認調査

日高市教育委員会では、高麗村石器時代住居跡周辺での遺構の有無、広がりや配置状況、遺跡の時期や規模などを把握するために、平成20年度～22年度に確認調査を実施しました。平成20年度は未買収の国道改築予定地（平成23年度埼玉県埋蔵文化財調査事業団による調査箇所）と墓地移転先の946㎡、平成21年度は、史跡北側の緩斜面地及び東側の平坦面1,168㎡、平成22年度は、史跡の南側と西側の沢に向かう緩斜面地の4,440.26㎡の調査を実施しました。

調査の結果、高麗村石器時代住居跡周辺から、縄文時代中期の竪穴住居跡38軒以上、土壙19基以上、集石土壙2基を検出し、多くの遺構が眠っていることが確認できました。

平成21年度確認調査遠景
（作物の間を縫って確認調査用トレンチを設定）





高麗村石器時代住居跡の周囲からは、当時加藤喜代次郎氏が調査して埋め戻された未報告と考えられる住居跡が２軒確認できました。

高麗村石器時代住居跡の北側で検出した住居跡

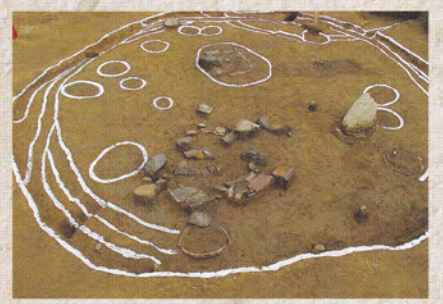
住居跡内から埋甕を検出

検出された石囲炉の礫

埼玉県埋蔵文化財調査事業団による調査

国道299号線の整備事業に伴う埼玉県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が平成20年度と平成23年度に実施されました。２回の調査で縄文時代中期後半の住居跡13軒、埋設伏甕1基、土壙17基などが検出されました。これらの遺構からは、集落の形成期と考えられる勝坂末から加曽利Ｅ期の土器や石器など多くの遺物が出土しました。

平成23年度調査区航空写真
（白い円形が住居跡）（埼玉県教育委員会提供）



6号住居跡遺物出土状況
（埼玉県教育委員会提供）

埋設伏甕を検出
（土器を逆さまに埋め、底部に穴を開けています）
（埼玉県教育委員会提供）

－縄文のムラ－

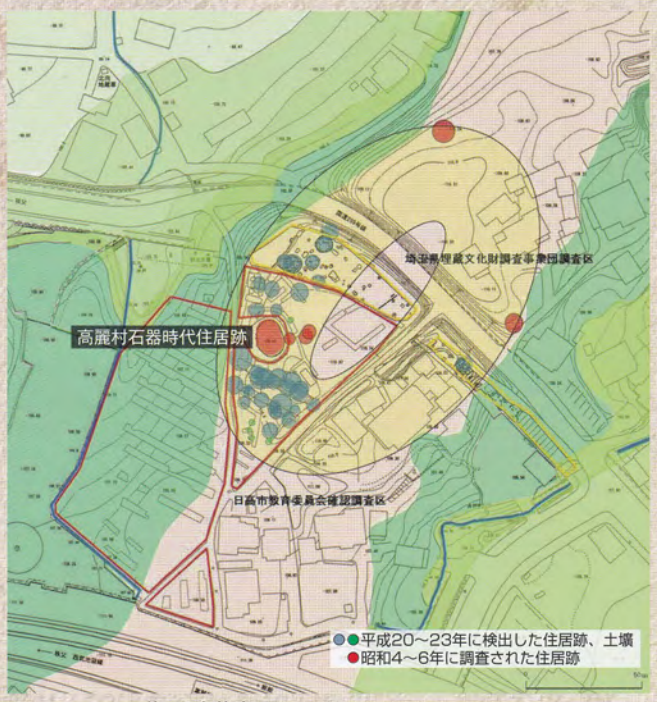
丘陵の環状集落

高麗村石器時代住居跡の周辺から縄文時代中期後半の住居跡が38軒以上確認されました。昭和4年～６年の加藤喜代次郎氏の調査を含めた住居跡の分布をみると、台地平坦面には広場のような空間があり、住居跡は台地の縁を巡るように作られていることがわかります。これを「環状集落」と呼び、縄文時代のムラのかたちです。

高麗石器時代住居跡遺跡も直径120mほどの範囲に住居跡が広がっていると考えられます。この集落規模は、丘陵地の狭い台地上における環状集落のあり方を示していると考えられ、丘陵地の遺跡群を研究する場合に高麗石器時代住居跡遺跡は非常に重要です。

環状集落（かんじょうしゅうらく）

中央に空間を設け、その周囲に住居を巡らす集落を環状集落と呼びます。



住居跡分布図（黄色は環状集落の想定円）

高麗石器時代住居跡遺跡航空写真（埼玉県教育委員会提供）

－保存と活用にむけて－

日本考古学黎明期の昭和４年に住居跡が発見されて以来、高麗村石器時代住居跡は土地所有者の協力により今日まで大切に保存されてきました。確認調査の結果から、周辺にも未調査の住居跡が多く存在し、良好な状態で集落が残っていることが明らかとなりました。

国指定史跡である高麗村石器時代住居跡は、周辺の環境を含めた縄文時代のムラの景観を復元することが出来るという大きな特徴を持っています。

今後は縄文のムラとして保存するために周辺部を含めた史跡整備を行い、活用を図っていきます。

国指定史跡
高麗村石器時代住居跡リーフレット
編集・発行
日高市教育委員会
〒350-1292　埼玉県日高市大字南平沢1020
TEL 042(985)0290　FAX 042(985)8779
e-mail　bunkazai@city.hidaka.lg.jp